

平成27年度学校評価表

1 学校教育目標
「敬天愛人」の校訓のもと、人格の完成を図りながら、各地・各界で活躍できる人材の育成を目指す。また歴史と伝統を大切にした特色ある学校づくりに努める。 教育スローガン「いつも心に太陽を！」～ Go for it !～

2 本年度の重点目標
本校の役割としての学校の目標、生徒の目標、教師の目標の3つに区分する。 (1) 学校の目標 ①人材育成 ②社会に貢献できる学校 ③伝統を受け継ぎ、次の世代に (2) 生徒の目標 ①社会で生きていける力を身に付けよう！ ②目標を高く、夢を実現する！ ③心を込めて校歌を歌おう！ (3) 教師の目標 ～くまもとの教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』の教育指針のもと ①専門性の高い魅力的な教師 ②進路保障100% ③豊かな愛情と人権感覚

3 自己評価総括表	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員、生徒、保護者へ説明し、生徒95%保護者85%の認知度へ高める。	職員会議、全校集会、学年集会、PTA総会、PTA新聞、地区懇談会等で趣旨を説明する。	B	生徒や教職員には学校行事や一斉HR等を通じて教育目標と重点目標は浸透している。保護者への理解度は高くなかった。
	家庭学習の習慣化	家庭学習課題の与え方と取り組み	各教科、科目の課題と評価の継続。3日以上連休がある場合は1科目以上の課題を出す。	各担当者の共通理解の下、主任を中心として課題を徹底する。家庭学習の実態を調査し、その結果をもとに各教科に課題を与えてもらうよう依頼する。	A	家庭学習の実態調査を実施し、その結果を受けて3連休以上は課題を出す取り組みを実施できた。今年度は5教科で実施したが、今後は専門教科や進路部との連携も考えられる。
学力向上	学習内容の定着と基礎学力向上	成績不振者の減少	各考査の欠点者数・追考査該当者数を昨年度より20%減少させる。	生徒による授業評価を実施し授業方法の更なる改善により学習への意欲と理解度を高める。	B	3年追考査対象者が多く出た。2学期の中だるみを防止することが重要。
	系統的・計画的進路指導の充実	系統的進路指導と進路意識の向上進路情報の提供	各種模擬試験受験と、卒業まで資格を3種以上取得させる。年3回以上の面談実施。3年1学期までに3回以上各種ガイダンスに参加させる。	各学年に応じた進路指導を徹底し、模擬試験・資格取得の受験を促す。2年次3学期までに三者面談や個人面談を行い第一志望候補を検討するなど家庭との連携や進路意識を高める。	B	各種検定実績は生徒間のばらつきが大きかったが3種以上取得の生徒もかなり見られた。各クラス面談は確実に行われたが、その後に敢えて方向を変える例が多々見られ、面談の実効性を高める対策が必要である。
キャリア教育・進路指導	キャリア教育の充実	職業理解能力の向上と勤労観、職業観の育成	各学年2回以上の進路講話を実施し、意識の高揚を図る。3月末の就職内定率100%を目指す。	卒業生や社会人講師による講演会を実施。進路情報の提供、現場実習・ボランティア活動を充実し、就職支援を行う。早期離職対策としてキャリアサポーターからの講話・面談を利用する。	B	就職内定率は12月までにほぼ100%が達成された。早期離職者が23・24年度卒で約50%に上る実態であり、今後とも安易な離職を防止する対策が必要である。特に保護者を交えた就業意識の啓発が必要である。
	基本的生活習慣の確立	爽やかな挨拶と礼法指導の徹底	年間を通じ全職員での登校指導と生徒による挨拶運動を展開する。	生徒会、農業クラブ、部活動等の生徒、職員による挨拶運動の実施。入室時マナーの指	B	職員全体の指導力をまだまだアップさせていかなければならない。同じ方向性を確認して生徒へ返すことをまだ

生徒指導		端正な服装指導の徹底 時間厳守の指導徹底	服装・頭髪検査の実施と日常的指導を徹底する。 全職員による指導を徹底する。	導徹底。 職員全員がチェックカードを持ち、服装指導の徹底を図る。 毎日の学校生活で全職員が共通認識を持ち指導を徹底する。		まだやっていかなければならない。 生徒は規範意識を色々な場面で身に付けていく努力を高めていかなければならない。
	交通安全の推進	交通安全モラルの確立と自転車二重ロックの徹底	交通安全指導、交通講話、安全点検の実施。 二重ロック率98%以上を目指す。	毎日の登校時に二重ロックの点検を実施。事故防止のための交通教室を年2回実施する。 全職員による登下校指導を実施する。	A	毎日の登校時に挨拶指導及び二重ロックの点検の成果が出てきている。 生徒が点検にも参加したり、クラスで呼び掛けたり工夫が見えてきた。
人権教育の推進	他者を思いやる人権感覚を持った生徒の育成	人権教育の学習内容の充実と職員研修の充実	各学年、年3回分の教材を作成。年1回の講演、年3回の職員研修を実施する。	人権教育に関する学習指導案の作成や講演、職員研修を人権教育委員会が企画し運営する。	B	職員研修が昨年よりも少ない1回しか実施できなかったが、生徒への人権講話については2年生で実施することが出来た。 人権教育の授業案が1年から3年まで通した形での授業案の作成、共有が出来るようになった。
	「命の大切さ」を育む教育の推進	自尊感情を育み、自他の命を大切にしようとする生徒の育成	保健4時間、家庭1時間、ホームルーム（または全校集会）2時間の指導を実施する。	教科授業での実践 人権教育委員会、生徒相談委員会で企画し学年、生徒部、進路部で実践。	B	全校集会、一斉HRの講話の中で「命の大切さ」についての取り上げて、生徒の意識の高揚に努めた。また全教科、全領域において人権教育の視点での指導を心がけるように努めている。
いじめ防止等	いじめ防止に向けての取組強化	いじめを許さないクラス・学校づくり、生徒全員が安心して学べる環境づくりの実践	担任を中心としたクラス生徒の情報収集の徹底と情報の共有、問題解決のための組織運営に努める。	生徒一人一人の観察と個人面談等での情報収集に努め事実関係の把握に努める。情報共有に努め組織立った取組を実施する。	B	職員の感覚と生徒の感覚と保護者の感覚に少しずれが見える。 三者の関係を良好にしながらかん覚の一致を図っていかねければならない。
	早期対応による早期解決と予防	いじめ防止のための組織運営の強化及び早期問題解決と予防の強化	年2回(6月、12月)の心のアンケートを実施し、早期発見・解決と予防に努める。 一斉HRや全校集会でのいじめ防止に関する講話等指導の徹底。	緊急を要する場合以外でも早期対応ができるよう組織立った取組の強化を図る。 いじめ対策委員会を経て全職員への共通認識と対応の方向性を示し、解決と予防に努める。	A	早期発見、早期対応がうまくできている。 担任、学年、学科、保護者、生徒との連携が早期解決に繋がっている。
専門教育の推進	生徒が輝き活躍する農業クラブ活動の推進	農業クラブ活動の充実	各種競技会への積極的な参加と成績向上プロジェクト学習の推進	地域連携、関係機関との連携、学科間連携を重視した活動を実践する。	B	農業クラブ全国大会鑑定競技において優秀賞7名を出した。しかし、プロジェクト活動は県大会で最優秀賞を取るにいたらなかったが学科間連携ができた。
	農業の良き理解者を増やすための地域貢献活動の推進	農場教育を活かした地域貢献活動の強化	地域ボランティアの推進 幼保小中校との連携強化。 地域イベントへの積極的参加 学科の教育内容公開。	農業体験学習の実践。 地域イベントへの参加とアピール活動。 マスコミへの情報発信。 ホームページの充実。 花一杯運動の推進。 開放講座の充実。	B	地域の幼稚園、保育園との交流が活発に行えた。 地域イベントにも各学科協力の下、積極的に参加できた。 開放講座は、昨年同様申込多数で大盛況であった。

4 学校関係者評価

- (1) 各科の積極的な取り組みやスポーツ等で活躍されている様子を報道で拝見しております。熊本のみならず、他県にもアピールとなり、地域を根ざした広がりがあり嬉しく思います。
- (2) 第1回目の評議員会において、平成26年度の退学者が0であるという報告に入学した生徒さんたちが、自分に合った選択をし、又、入学後も目標を持ち、充実した学校生活を送っているものと感動しました。
- (3) 熊農の7学科の中で「農業経済科」と聞いてもどんなことを学ぶのかイメージが湧かない。だから志願者が少ないのではないか。中学生にアピールが必要ではないか。中学生向けのアピールCDを作成し、各中学校に配布してはどうだろうか。
- (4) 今、中学校ではスクールカーストやキラキラ組、じみ組などの言葉があり、クラス内の力関係を表しているそうです。小学校の頃から続いているらしく、いじめに繋がることが多々あるので高校でもいじめに対しての対応をしっかりとお願いします。
- (5) 毎朝、中学校の前を多くの熊農生が通りますがあいさつをしても返って来ないことが多くなりました。返事をしてくれない生徒さんは同じです。あの姿を見た中学生は熊農にいいイメージは持たないので、しっかりとした指導をお願いします。
- (6) 3学年とも出席率がいいのは学校生活が落ち着いている証拠である。これからもこの雰囲気を持続して頂きたい。
- (7) 3学年の欠点者が増えているのが気になる。
- (8) 最近、学校の評価が低いということで、制服のデザインを替えたりしている学校があるが熊農は伝統ある学生服をしっかりと守っていただきたい。流行に流されることなく外見よりも中身で勝負して欲しい。
- (9) 農業高校は生き物を相手にした教育がなされ、人権(命)にかかわる生きた教育を進めていってほしいので素晴らしい。

5 総合評価

- (1) 学校評価アンケートから、本校に入学して良かったと生徒(89%)も保護者(96%)も高く評価しているが、目標を持って学校生活を送っている生徒は約7割で、3割の生徒が目標を持てていない状況である。授業への取り組み方や理解度については約3割の生徒が積極的でなかったり、授業理解に不安を抱えている。生徒の授業への取り組み方の指導も必要であるが、目標の設定と意欲を持たせ、わかる授業になるために工夫改善が必要である。
- (2) 今現在、今年度も退学した生徒はおらず、進路変更の生徒もいない。また、ほとんどのクラスが出席率98%を越えていることから基本的な生活習慣は確立できており教師間の連携も図られてきた。教師間や教師と保護者の連携を密にしながら継続した取り組みを行っていく。
- (3) 残念な結果であるが欠点者数が昨年度に比して増加しており、生徒の授業への取り組み方や教師の授業のあり方を検討し、基礎学力の向上を図る必要がある。
- (4) 進路指導に関しては、100%内定を目指し取り組んできた。生徒の多様化、進路希望の多様化もあるが、早期からの進路指導を充実していかなければならない。
- (5) 特色ある学校づくりにおいては、学科の特色を活かした取り組みにより農業クラブ全国大会では7名が優秀賞を獲得した。また、畜産科と農業経済科での取り組みとして、有明海の規格外の海苔を鶏餌に加えた熊農ブランド卵「海苔ノリたまご♥黄身に夢中♥」が話題となった。更に日頃の農業教育の成果が現れるよう生徒の育成に努める。
- (6) 農業高校ならではの農産物販売やボランティア活動等で地域連携活動には高い評価を得ているので、今後も継続した取組と地域連携に努める。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 日頃の挨拶服装等の基本的な生活習慣については、近い将来、社会人となる上で大切な事であるので倫理観や社会性を身に付けた生徒の育成ができるよう工夫ある指導に努める。また、生徒が自主的・自発的な活動ができるような指導を推進していく。
- (2) 今年度もいじめに関する問題は少なく重大事案は発生していないが、きめ細やかな指導の徹底を図り、生徒及び教師の共通認識として「いじめのない学校づくり」をめざし、安全に安心して学校生活を送れるよう学校を挙げて取り組む。
- (3) 伝統の相撲部をはじめ、部活動の活性化を図る。現在、大相撲やボクシングで卒業生が活躍していることを本校の誇りとし、生徒の意識を高める。
- (4) 進路指導では、早期の進路目標の設定、第一希望達成に向けた取組と情報提供を行う。また、農業高校として、若手の農業従事者の育成を推進していく。
- (5) 専門教育では、研究活動の活性化を図るとともに生產品のブランド化を推進し、農業高校の中核校としての役割を果たし、農業高校のアピールに努める。